

	7月	8月	9月	10月	11月	12月
令和元年	76	95	84	63	83	67
平成30年	95	83	76	91	74	79
前年比	-19	+12	+8	-28	+9	-12

令和元年に北海道で最も自殺者の少なかった月は10月の63人でした。逆に最も多かった月は5月の96人でした。前年比において最も自殺者が減少したのは、10月の28人、逆に最も増加したのは2月の21人でした。

参考文献

「令和元年中における自殺の状況」、2020、厚生労働省・援護局総務課自殺対策推進室 警察庁生活安全局生活安全企画課

【2】自殺について知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

◇自殺対策を推進するために映画制作者と舞台・映像関係者に知ってもらいたい基礎知識◇
 今回は、世界保健機関(WHO)により公表された「PREVENTING SUICIDE: A resource for filmmakers and others working on stage and screen」を自殺総合対策推進センター(JSSC)が2020年に日本語訳した資料、「自殺対策を推進するために映画制作者と舞台・映像関係者に知ってもらいたい基礎知識」についてご紹介させていただきます。

本資料は、映画制作者、テレビ、映画、演劇向けに自殺や自傷に関する内容の企画・制作を行う者を対象としており、作品が人々に与える好ましい影響を最大限に高め、特に自殺リスクの高い人や精神的健康に問題を抱える人に、有害な影響を与える危険性を低減することを目的としています。また、実際に起きた自殺およびフィクションの自殺をテレビ番組、映画、ドキュメンタリー、演劇などで描写する場合に適用できるように作成されたものとなっています。

○ すぐわかる要点(クイック・レファレンス・ポイント)

- ・ 困難な状況に屈しないことやそうした状況から立ち直る力(レジリエンス)、また効果的な問題対処の方法を示している人物や物語を取り入れること
- ・ 支援サービスから援助を受ける方法の概要を示すこと
- ・ 友人や家族などからの支援は重要な価値があることを示すこと
- ・ 自殺の行為や手段に関する描写を避けること
- ・ 現実に基づいてストーリーを展開させること
- ・ 自殺の兆候となり得るものと、兆候にいかに対処すべきかを含めること
- ・ 自殺の背景にある複雑な要因と広範な問題を示すこと
- ・ 適切な言葉を用いること
- ・ 自殺対策とコミュニケーションの専門家、精神保健の専門家、自殺関連の実体験者の助言を受けること
- ・ 映画、テレビ番組、ストーリーミング動画、演劇の開始前に注意喚起・警告のメッセージを挿入する必要があるかよく考えること
- ・ 自殺の描写が舞台や映画制作に関わる者に与える影響を考慮すること

- ・ 18 歳未満の鑑賞者を対象とする作品では、保護者向けガイダンスを提供すること

○ 舞台および映像における自殺描写がもたらす悪い影響

最近の研究の大半において、映像で自殺を描いた場合の影響に一定のパターンがあることが示されています。自殺シーンが描かれているシリーズ番組のオンライン配信に関する研究では、番組配信が自殺の増加のみならず、自殺未遂や自殺念慮で小児病院に運ばれる若者の増加とも関連性があることが示されました。番組の配信開始から 6 カ月間遡って小児患者のカルテを調べたところ、多くのカルテ（主に精神保健に関する診察のカルテ）で、この研究対象となっていた番組のことが言及されていました。テレビ番組と自殺に対する意識の高まりとの関連性が認められる一方で、自殺手段に関する用語のインターネット検索が増加したこともまた懸念されます。

○ 映像における自殺描写がもたらす好ましい影響

ドキュメンタリー番組は援助を求めたいという意志を高めることが明らかにされています。ドキュメンタリー番組に関する他の研究では、統合失調症を扱ったドキュメンタリー番組は偏見を減らすという仮説の一部を裏付けています。危機を克服した人を描くことが自殺リスクの高い人に有益な影響を与える可能性があることも研究から明らかになっています。こうした好ましい効果はモーツァルトのオペラ「魔笛」の登場人物にちなんで「パパゲーノ効果」と呼ばれています。

孤独感や隔絶感といった自殺につながる感情を和らげることに取り組んでいる団体「サマリタンズ」の活動を描いたテレビ番組シリーズは、自殺に関する知識向上だけでなく、同団体への問い合わせの増加にもつながっていることが分かっています。演劇における自殺描写がもたらす好ましい影響については、さらなる研究が必要です。

○ まとめ

研究では、映像や舞台で自殺をセンセーショナルに描くと、その後の模倣自殺や自殺未遂につながる可能性があることが指摘されています。このことは、映画、舞台、映像作品の企画・制作に携わる者は自殺を描く際に、有害な影響を与えるリスクを低減するために注意を払わなければならないことを示しています。その一方で、映像で自殺関連行動を描くことは鑑賞者に好ましい影響を与える場合もあるということも研究によって証明されています（自殺の危機の克服、助けを求める行動、心の健康状態の正確な描写、危機介入センターや電話相談サービスなど支援を提供する専門家の紹介、自殺した登場人物の死の描き方への配慮等の要素が作品に含まれている場合）。つまり、映像作品や舞台作品の制作は自殺対策に貢献し、人の命を救う可能性を持っているのです。

参考文献

本橋 豊 監訳、「自殺対策を推進するために映画制作者と舞台・映像関係者に知ってもらいたい基礎知識 PREVENTING SUICIDE: A resource for filmmakers and others working on stage and screen」、2020、自殺総合対策推進センター 発行

【3】お知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

◇ 精神保健福祉センターでは、こころの電話相談を次の時間帯で行っています。

月曜から金曜日 9:00～21:00

土曜日曜祝日（12月29日～1月3日を除く） 10:00～16:00

Tel : 0570-064-556

※ご相談の電話が集中しますと、つながりづらい状態になりますがご了承ください。

◇ HP・携帯版HPをご覧ください

北海道地域自殺対策推進センターのHPを開設しています。最新の北海道の状況を掲載しており、より情報を見やすく、分かりやすくお伝えできるよう心がけています。

パソコンHP URL : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/jisatutaisaku.htm>

また、携帯電話で見ることができる携帯版HPも開設しています。警察庁および北海道警察から公表された統計資料をもとに、北海道における自殺の状況を掲載しています。こちらも併せてご覧ください。

携帯HP URL : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/i/joukyou.htm>

【4】編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

北海道でも大方の雪は溶け、いよいよ春到来といった趣（おもむき）になりました。

年度の終わりということで、当センターでも職員の異動など様々な変化がありました。毎年のことではありますがこうした移り変わりには寂しさを覚えます。皆様にはどの様な変化がありましたでしょうか。できれば寂しさだけではなく、楽しみも同時に感じられるような気持ちでいられたらと思います。

さて、3月は国の定める自殺対策強化月間でした。各所でポスターの展示など様々な普及啓発活動が行われました。また、警察庁自殺統計の令和元年確定値の公表もありました。Andanteでも取り上げていきますので、楽しみにお待ち頂けると幸いです。

依然として、コロナウイルスの脅威は留まることを知りません。皆様におかれましては体調に十分注意し、無理はなさらぬようお体ご自愛ください。

いつもご愛読ありがとうございます。

次号 Vol.130 は、令和2年4月末に配信予定です。

お問い合わせ先

北海道立精神保健福祉センター

札幌市白石区本通16丁目北6番34号

Tel 011-864-7121

Fax 011-864-9546

URL <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/>

Mail hofuku.seishin1@pref.hokkaido.lg.jp